

日本のりんご輸入は、

1971年に自由化され  
て45年を経過したが、こ  
れまでに、日本向けにリ  
ングを輸出した国は、ア

メリカ、ニュージーラン

ド(NZ)、オーストラ

自由化されてから、千  
トントを超えるりんごが輸入

日本産の生産量が96万3  
千トントであったから、最も  
多く輸入された年でも輸  
入量は日本産のわずか1  
%にすぎない。

## 5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

33

リア、韓国、北朝鮮、ネ  
パール、フランスの7カ  
国である。

過去最大の輸入量は、

95年のアメリカからの8

935トンで、同年、韓国

とNZからも輸入があ  
る。合計で9295トンの  
輸入があった。この年の

輸入が16回に及ぶ韓国

されたのは、わずかに6  
回だけ。輸入皆無から1  
00トントにも満たない年が  
23回もあって、これまで

のところ、日本の生鮮リ  
ング市場は開放されてい  
るとは言えない。

量的には少ないが、輸

は、2015年6月に日  
本未発生の病害である火  
傷病の発生を理由にリン  
ゴの輸入が禁止された。

# NZ、新品種で攻勢か



ニュージーランド産のエンヴィ (杉  
山芬・雍著「青森県のりんご」から)

武器に日本市場拡大を目  
標しているという。NZが

開発した会員限定品種を

日本産の生産量が96万3  
千トントであったから、最も  
多く輸入された年でも輸  
入量は日本産のわずか1  
%にすぎない。

輸入再開は不透明だが、  
通常は病害を完全防除し  
た上で解禁要請があれば  
一定の手順を踏んで審査

が行われる。審査は相  
当の年数がかかることから  
韓国産の輸入再開は当分  
かなわないだろう。

この他、りんごの解禁  
要請をしている国は、イ  
タリア、アルゼンチン、  
フランス(品種追加)の  
3カ国だが、審査の動き  
はない。

最大の生産国である中  
國は日本にいない害虫  
「コドリンガ」の生息地  
のため、輸入が禁止され  
ている。

（眞りんご輸出協会事務  
局長 深澤守）

過去に輸入実績のあ  
る、北朝鮮、ネパール、

フランスからは長らく輸  
入はなく、アメリカは再  
開を模索しているようだ  
が、オーストラリアも含

め日本の厳しい検疫条件  
が立ちふさがっている。

唯一日本向け輸出を続  
けているのがNZだ。南  
半球という地の利を生か

して、日本が端境期の夏  
場に新鮮なりんごを供給  
できるという強みがあ

る。

現在、「Envy (エ  
ンヴィ)」というNZが  
開発した会員限定品種を